

新学校点描

やっと温かくなってきたと思ったら嵐の日々が続きます。三寒四温というには厳しすぎます。

《K中学校》

NO.17 R4. 2. 22

担当：校長

1月18日（金）長年に渡って、人権作文コンクールに応募してきたことを認められ、Y地方法務局S支局の渡部支局長様はじめ人権擁護委員の方々から感謝状を頂きました。感謝状授与の前に2年生の加藤依菜さんと松田愛羅さんが、今年最後のスクールツアーを案内してくれました。渡部支局長は、中学生の案内と中学生の授業場面を見て、ご自分の中学時代を思い出したとお話ししてくれました。

新型コロナ感染防止のため、2年生の高校説明会をZOOMで行いました。各高校の先生方が、オンラインで、ご自分の高校について生徒の質問に答えてくれます。時代もすっかり変わりました。

主人公

NO. 16号のあと、返信のメッセージをいただきました。お名前もなかったのに、許可をいただかないで、ご紹介することをどうぞお許してください。

『昔はただ読み流していました。『永訣の朝』には、こんな深い意味が詰まっていたんですね。切なくなりました。先生の日頃の想いも切ないですね。でも…忘れかけていた人としての大切なものを思い出させていただきました。ありがとうございます。人を思いやりながら生きていきたいと、またあらたに決意しました。(70才です)』

70歳の方からのお手紙が、本当にありがたくて、うれしくて。こんな拙いたよりの何気ない話の内容でも、そこからご自分の人生に生かすことを見つけていただいたことに頭が下がる思いです。人は何歳になっても、いや、歳を重ねていくほどに、人生をていねいに編んでいくものなのですね。

さて、どこの学校でもやっていない本校しかやっていない取組みのひとつに「スチューデントサポーター制度」があります。一言で言うと、“中学生のスクールカウンセラー養成講座”です。養護教諭の小野美千子先生が主となって、講座の企画と運営をしてもらっています。昨年からは2期目となり、今期も1,2年生の男女9名が、放課後に視聴覚室で全9回の講義を受けています。講師は、スクールカウンセラーの方や、学校の裏方に回っている職員の方々等、毎回それぞれの立場から、人との接することでのポイントや、人生観を9名の中学生に話をしてもらいます。7回目の講座は、業務員のMさんをお願いしました。

26年前に本校で勤務していたとき、1年生に髪の高い男子生徒がいました。運動が得意な彼は、クロカンスキー部に入り夏も冬も仲間と一緒に汗を流していました。彼には髪を伸ばす理由がありました、それは補聴器をつけていることを他の人に見せたくなかったからです。耳に障害がある生徒でした。それがMさんでした。

今年から、不思議な縁から元の教え子のMさんと一緒に働いています。わたしは時々、作業着を着て、業務員のMさんと一緒に校舎のお金をかけない修繕作業をしています。2年

生の使用する男子トイレの壁が長年隙間が空いていたので、二人で知恵を出し合って修繕したのは大変でした。Mさんは、わたしのイメージしていることを先回りして想像しながら仕事を進めてくれます。

スチューデントサポーターの講師となったMさんは、とても緊張していました。受講生の生徒には、聞きづらいところがあっても、想像しながら聞き取るようにと、わたしから話をして、講話がはじまりました。

私は生まれつき重度の感音性難聴という障害があります。両耳は補聴器をしないと全く聞こえません。…自分は運動が得意なほうだったので色々なスポーツをしてきて、特にスキー部では沢山の経験をしました。ただ、中学生で反抗期が始まり、人前で補聴器を見せることが嫌で髪を伸ばして隠していました。周りの人に迷惑をかけていた時期でもあります。でも自分の中で「何か変えたい！」という気持ちもあり、高校3年生の運動会で自分から立候補して運動会の組頭をしました。障害者でもできるというのを見せたかったからです。本当にやってよかったです。成人してからは町の役に立ちたいと思い、いくつかの仕事をしてきました。良くも悪くも沢山の経験をしました。そして、今は金山中学校の業務員をしています。先生方、生徒の皆さんに助けて頂きながら毎日楽しく働いています。今はコロナ禍でマスクになり、自分のような障害があると不便なものも確かに、マスクをすると相手の口の動きがよみとれないということです。少しでもいいのでこういう思いをしている人もいてくれるとありがたいです。今日はありがとうございました。

受講生の中学生には講話を聞いた後に感想を書いてもらいました。S・Rさん「きっとMさんも自分のように辛いことが沢山あったと思う。でもそんな中で「何かを変えたい」という思いを持ったのは凄いと思いました。」N・Tさん「普段明るいMさんにも辛い時があったというのは初めて知りました。ですが、耳に障害を持っていても自分はMさんの声がしっかり聞き取れました。」M・Rさん「わたしにも、人生の中で『変わりたい!』と思う時がくると思うから、その時は勇気を出してチャレンジしたい。」

真剣にここで聞き取ってくれた生徒達に、Mさんも嬉しそうです。

この2日、吹雪の中の登校が続きました。生徒達の背中にも雪が積もっています。寒い中登校する一人一人の生徒達に伝えたいのは、このお二人から感じたことです。

どんなに小さな物語でも、自分の人生の中では、誰もがみな主人公なんだということを。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。

メールでご意見をいただいても構いません。 Shinyatk1616n@yahoo.co.jp

